

(仮称) 検見川・真砂スマートインターチェンジの新規事業化が決定しました

千葉市では、東関東自動車道の湾岸習志野IC～千葉北IC間に、「(仮称) 検見川・真砂スマートインターチェンジ」を設置するため、各関係機関と検討を進めてきましたが、このたび、新規事業化が決定しましたので、お知らせします。

1 概要

- (1) スマートインターチェンジの名称
(仮称) 検見川・真砂スマートインターチェンジ
- (2) 連結位置
千葉県千葉市
- (3) 路線名
東関東自動車道 水戸線 (湾岸習志野IC～千葉北IC間)
- (4) 事業主体
千葉市、NEXCO 東日本
- (5) 許可日
令和4年9月30日 (金)

2 期待される効果

千葉港を中心とした「湾岸地域」と「東京方面」とのアクセス性を格段に向上させることができ、渋滞の緩和、アクセス機能の強化、産業や観光の振興など本市の持続的な経済発展に寄与します。

3 今後について

具体的な位置や構造などについて、住民の皆様へお知らせするため地元説明会を開催する予定です。

また、本事業と一体となって整備が必要となる「(仮称) 検見川立体」の早期着手について、引き続き、国へ要望していくとともに、関係機関と連携を図りながら、スマートインターチェンジの具体的な設計を行うなど早期開通に向け事業を推進して参ります。

<参考>

スマートインターチェンジに関する情報を YouTube で発信しています。
以下の市ホームページから視聴いただけます。

【URL】 <https://www.city.chiba.jp/kensetsu/doro/keikaku/smartic.html>



令和4年9月30日
道路局

スマートインターチェンジの 高速道路会社への事業許可および準備段階調査着手について

国土交通省は、スマートインターチェンジ7箇所について、本日付で高速道路会社へ事業許可を行いました。

併せて、新たにスマートインターチェンジ4箇所について準備段階調査に着手します。

別添①：スマートインターチェンジの高速道路会社への事業許可について

別添②：スマートインターチェンジ新規事業化箇所の整備効果

別添③：スマートインターチェンジの新規準備段階調査着手箇所について

<問い合わせ先>

国土交通省 道路局 代表 TEL 03-5253-8111

高速道路課 御器谷、高橋（内線：38362、38353）

直通：03-5253-8500 FAX：03-5253-1619

スマートインターチェンジ※¹の高速道路会社への事業許可

別添①

スマートインターチェンジの新規事業化箇所

スマートインターチェンジの名称(仮称)※ ²	連結位置	路線名	事業主体
しんとく ※ ³ 新得	かみかわ しんとく 北海道上川郡新得町	北海道横断自動車道黒松内釧路線(トナムIC～十勝清水IC間)	NEXCO東日本 (新得町)
はちまんたい 八幡平	はちまんたい 岩手県八幡平市	東北縦貫自動車道弘前線(松尾八幡平IC～安代IC間)	NEXCO東日本 (八幡平市)
ちよだ 千代田PA	茨城県かすみがうら市	常磐自動車道(土浦北IC～千代田石岡IC間)	NEXCO東日本 (かすみがうら市)
あしかが 足利	あしかが 栃木県足利市	北関東自動車道(太田桐生IC～足利IC間)	NEXCO東日本 (足利市)
けみがわ・まさご 検見川・真砂	ちば 千葉県千葉市	東関東自動車道水戸線(湾岸習志野IC～千葉北IC間)	NEXCO東日本 (千葉市)
がいかんやしお 外環八潮	やしお 埼玉県八潮市	常磐自動車道(東京外環自動車道)(草加IC～外環三郷西IC間)	NEXCO東日本 (八潮市)
かんだ 神田	ながはま 滋賀県長浜市	北陸自動車道(長浜IC～米原IC間)	NEXCO中日本 (長浜市)

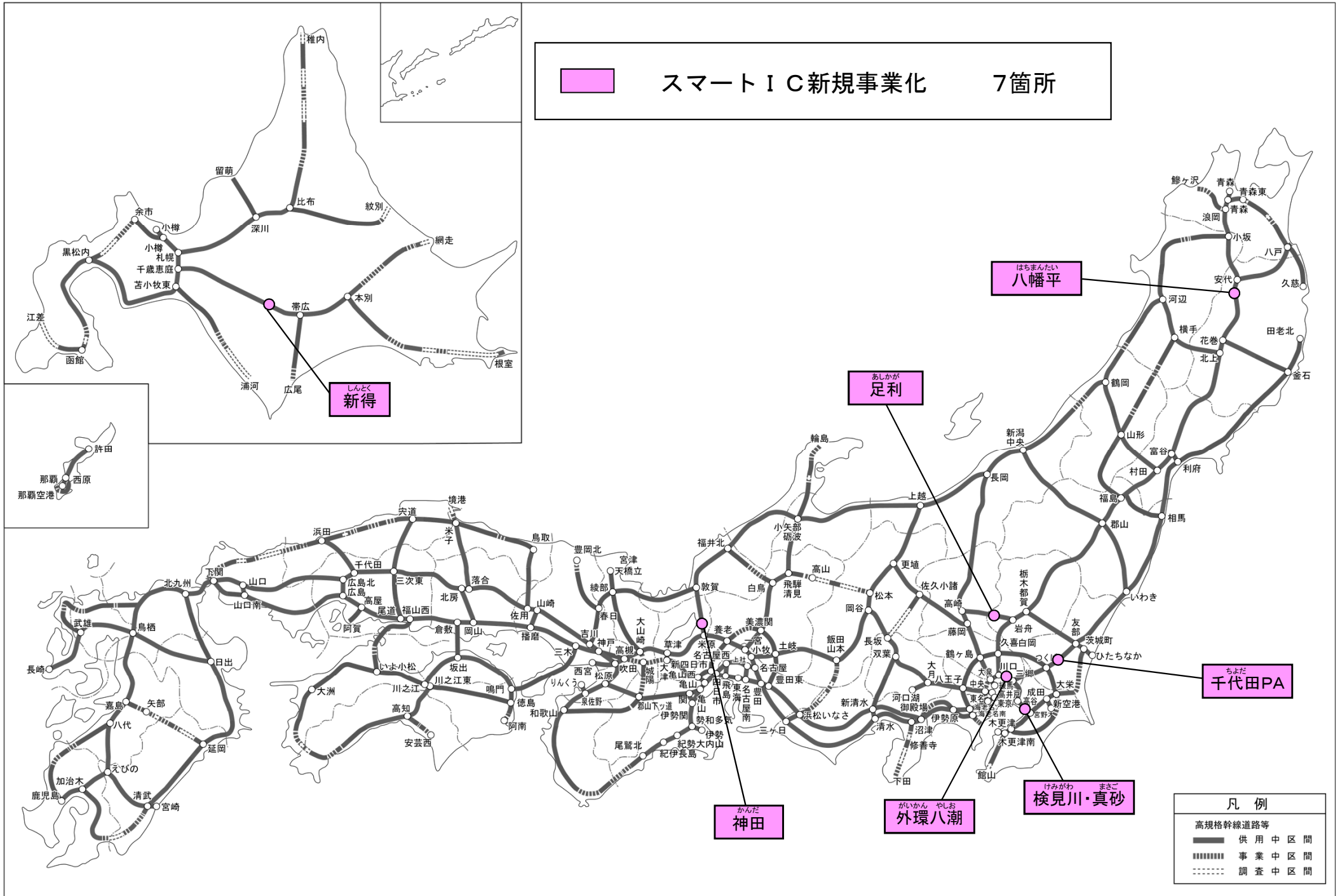
※¹ スマートインターチェンジとは、高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリアから乗り降りができるように設置されるインターチェンジであり、専らETCを搭載した車両が通行することを目的としたインターチェンジです。

※² スマートインターチェンジの名称は仮称であり、正式な名称は、地元や利用者のご意見等も踏まえて決定されます。

※³ 新得スマートIC(仮称)の事業化に合わせて、新得パーキングエリア(仮称)も事業化されます。

スマートインターチェンジの新規事業化箇所図

別添①



スマートインターチェンジ新規事業化箇所の整備効果

■東関東自動車道 検見川・真砂スマートIC(仮称)

<概要>

路線名：東関東自動車道 水戸線
わんがんならしの ちばきた
 (湾岸習志野IC～千葉北IC間)

設置場所：千葉県千葉市

接続形式：本線直結型

形式：片方向(2/4)(東京方面)

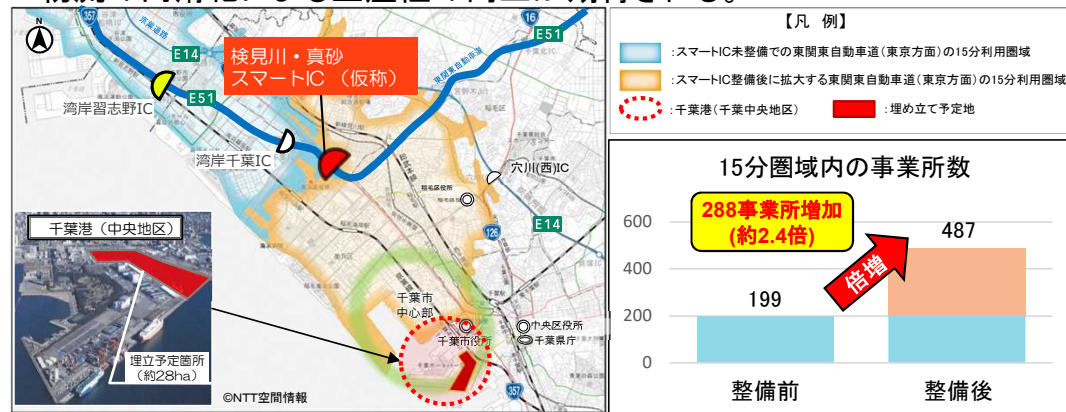
運用形態：全車種24時間

<位置図>



整備効果 産業の振興

- 国際拠点港湾である千葉港は、完成自動車の取扱貨物の増加に対応するため、埋め立てによる土地造成を予定しているなど、今後さらなる港湾機能の強化が見込まれる。
- 千葉港や中心市街地から高速道路へのアクセスが向上するとともに、東関東自動車道(東京方面) ICへの15分圏内の事業所が倍増し、物流の円滑化による生産性の向上が期待される。



※『平成26年経済センサス-基礎調査-』を基に、千葉市内における全産業の事業所を対象に集計

整備効果 観光の振興

- 千葉市の主要な観光地である千葉みなとや稲毛海浜公園では、賑わい施設整備による観光需要の増加が見込まれる。
- 首都圏と観光地とのアクセス時間が短縮することで、交通の利便性が向上し、更なる観光需要の増加が期待される。



※首都圏(千葉県を除く)との分岐点に位置する高谷JCTを基点として、観光地との所要時間変化を検証している